

倫理講義 4 古代インドの思想

得点源はここだ！

バラモン教(仏教以前の思想)。ポイントは、カースト制と梵我一如、因果応報！

1 バラモン教

バラモン (司祭)
クシャトリア (王侯・軍人)
ヴァイシヤ (庶民)
シュードラ (隷属民)

② 梵我一如…宇宙の根本原則であるブラフマン(梵)と個体(個人)の不変の実体であるアートマン(我)が一体となった状態。解脱の最終形態。

つまり、米粒が人間の魂、すなわちアートマンとしてみてください。米粒は、お寿司のシャリになったり、天井のご飯になったり、チャーハンやカレーライスのご飯になります。これが、生まれ変わり、即ち輪廻転生。そして、米粒がおにぎり(ブラフマンだと思っ
てね)を構成するご飯の一種になれば、もうお寿司やチャーハンなどに生まれ変わることはありません。おにぎりの一部になれば、輪廻から解放されます。この状態が梵我一如の状態です。

得点源 六師外道で覚える人物は、ジャイナ教の開祖→ヴァルダマーナのみ！

1 六師外道…自分の努力で解脱を求める者を沙門(「努力する者の意」といい、特に影響力のあった六人の沙門を六師外道という。

2 ジャイナ教…開祖→ヴァルダマーナ

→苦行と徹底した不殺生で輪廻からの解脱を説く

結論はこういうこと

バラモンのみが輪廻からの解脱の方法を知っていたため、バラモンの地位がアップした。しかし、バラモンは、自分たちの地位を維持するため、教義や儀式を複雑にした。その結果、儀式や教義が形式化し、しだいにバラモンに対する批判が高まった。そして、バラモン教の教義に頼らず、自分の努力で解脱を求める者、すなわち沙門を生み出した。その代表がヴァルダマーナであり、ブッダである。

得点源 ブッダの思想では、四諦、四苦八苦、六大煩悩、無明、四法印を覚えよう！

1 四諦…ブッダが最初に説いた説法において示した四つの真理。

(1) 苦諦…人生すべて苦しみであるという真理

古代インド人が畏れた思想=輪廻
輪廻からの解脱方法を知っていた
→バラモン

② 梵我一如…宇宙の原理原則であるブラフマン(梵)と個体(個人)の普遍の実体であるアートマン(我)が一体となった状態。解脱の最終形態。

③ 因果応報…前世の行為=カルマ(業)が現世を決定し、現世のカルマが来世を決定すること。

(1)輪廻(サンサーラ)…生まれ変わりを繰り返すこと。

(2)解脱…輪廻から解放されること。輪廻から解放された状態が梵我一如

↓
「一切皆苦」

〔四苦八苦〕

四苦 生…生まれ、生きる苦しみ
老…老いる苦しみ
病…病気になる苦しみ
死…死ぬ苦しみ

愛別離苦(愛する者と別れる苦しみ)

怨憎会苦(憎い者と出会う苦しみ)

求不得苦(得られない苦しみ)

五蘊盛苦(色・受・想・行・識からくる苦)

(五蘊=人間を構成している5つの要素。色=肉体を構成する要素、受=感受、印象作用、想=表象作用、行=意志作用、識=認識作用)

(2) 集諦…苦しみの原因が煩悩や無明にあるという真理

↓
ブッダの悟った真理を知らないこと

貪欲…必要以上に欲しがる。貪り → 三毒(とん・じん・ち)

瞋恚…怒り →

愚痴…本当のことを知らない。愚かさ→

慢…怠惰

疑…真理に対して疑問を抱くこと

見…間違った見解

集諦とは、苦しみの原因が煩悩と無明にえるという真理。煩悩は欲望の一種で、特に三毒と六大煩悩をしっかり覚えること。無明とは、無知のことで、この世の真理を知らないこと。真理とは、ダルマ(法)ともいう。すなわち無明とは、ブッダの悟った真理を知らないことをいう。

(3) 滅諦…苦しみの原因である煩悩を吹き消せば→涅槃の境地に至ることができるという真理。

滅諦とは、苦しみの原因が煩悩や無明にあるわけだから、煩悩を吹き消して、ブッダの悟った真理を知れば、苦しみから解放されるという真理。煩悩、すなわち欲望を炎に喩え、煩悩という名の炎を完全に吹き消した状態が涅槃(ニルヴァーナ)だ。

(4) 道諦…涅槃へ至る方法が→八正道であるという真理

↓
正見・正思・正語・正業・正命・正精進・正念・正定

ブッダの求めた中道とは、極端を避けることであり、快と苦の両極端を避けること。快楽に身を投じるわけでもなく、強靱な意志を磨くために行う苦行にもよらない正しい道の中道といい、具体的には八正道の実践を指す。

苦しみの原因が煩悩と無明にあり、それを消し去れば涅槃に至ることができるわけだが、どうすれば涅槃に至るのか？涅槃に至る方法が八正道であるというのがブッダの悟った真理の一つ。これを道諦という。

2 **四法印** …ブツダの悟った真理の根本的特徴をまとめたもの

一切皆苦…人生は苦しみの連続だ。

諸行無常 …この世は常に変化し、変わらないものはない。

諸法無我 …この世の存在に普遍の実体はない。

涅槃寂靜 …煩惱を吹き消せば心の平安が獲得される。

得点源 大乘仏教と部派仏教の違いを整理しよう！

	大乘仏教	部派仏教
仏	諸仏（仏はたくさんいる）	一仏（ブツダただ一人）
到達目標	仏になること	阿羅漢 （仏の一步手前の状態）
菩薩	自他救済に励む者すべて。	ブツダが悟りを開く前の状態
基本理念 など	＊無着・世親兄弟の 唯識説 ＊ ナーガールジュナ （竜樹）が大成させた 空 の思想 ＊六波羅蜜 ＊中国・朝鮮・日本などへ伝播 → 北伝仏教	＊ブツダの五戒を遵守 ＊出家を前提 ＊ミャンマー（ビルマ）・タイ・カンボジアなど東南アジア方面へ伝播 → 南伝仏教

つまり

- ① **大乘仏教**では、阿弥陀仏とか、毘盧遮那仏とか、薬師如来とか、大日如来とか、仏がたくさんいる。だから、諸仏なのだ。しかし、部派仏教では仏をいえばブツダただ一人なので、一仏となる。
- ② 何のために修行に励むのかといえば、勿論悟りを開くためなわけだが、具体的には大乘仏教では仏になるために、部派仏教では阿羅漢になるために修行する。
- ③ 菩薩に関しても、大乘仏教では、修行に励んで自他救済に励む者すべてを指し、特に自分より他人の救済を優先する者を指す。部派仏教では、ブツダが悟りを開く前の状態なので、ゴータマ＝シツダツダを指す。ゴータマ＝シツダツダが菩提樹の下で座禅瞑想して悟りを開き、ブツダとなる。部派仏教では、このあたりの背景を前提としているわけだ。

得点源 大乘仏教の用語詳解 センター出題

- ① **一切衆生悉有仏性**…生きているものはすべて仏となる可能性をもっていること。
- ② 慈悲…与楽（楽を与えること）、拔苦（苦しみを取り除くこと）のこと。
- ③ **唯識説**…一切の事物に実体はなく、心の働きにより生み出されるとする思想。 無着（アサンガ）・世親（ヴァスバンドゥ）兄弟によって発展・大成。人間の心の世界を分析・体系化したもの。
- ④ **空の思想**…ナーガールジュナ（竜樹）が大成した理論。我執を捨てることを主張。何ものにもとらわれず、何ものにもこだわらない状態を→空という。
- ⑤ 六波羅蜜…菩薩が実践すべき六つの修行内容。布施（他者に施し、与えること）、持戒（戒律を守ること）、忍辱（困難に耐えること）、精進（ひたすら努力すること）、禪定（心を安定させること）智慧（迷いはらい、一切が空であることを悟る智慧を完成すること）。

センター過去問演習

2019 本試 倫理・政経 慈悲について

仏教の実践としての慈悲の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 慈悲とは、四苦八苦の苦しみを免れ得ない人間のみを対象として、憐れみの心をもつことである。
- ② 慈悲の実践は、理想的な社会を形成するために、親子や兄弟などの間に生まれる愛情を様々な人間関係に広げることである。
- ③ 慈悲の実践は、他者の救済を第一に考える大乘仏教で教えられるものであり、上座部仏教では教えられない。
- ④ 慈悲の「慈」とは他者に楽を与えることであり、「悲」とは他者の苦を取り除くことを意味する。

正解→④

2015 本試 倫理・政経 四諦について

ブツダが初めて教えを説いた際に悟ったとされている四諦についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 苦諦とは、人間は誰しも、苦しみを嫌い楽を追い求める心をもっているという真理を指す。また集諦とは、そうした思いが積み重なって煩惱が増大するという真理を指す。
- ② 苦諦とは、人間の生の有り様は苦しみであるという真理を指す。また、集諦とは、そうした現実のゆえに、心の集中が妨げられ悟りが得られないという真理を指す。
- ③ 滅諦とは、煩惱の滅した安らぎの境地があるという真理を指す。また、道諦とは、そうした境地に至るための、極端に陥ることのない正しい修行法があるという真理を指す。
- ④ 滅諦とは、あらゆる存在はいつか必ず滅ぶという真理を指す。また、道諦とは、そうした道理を心に留めて、禁欲的な苦行を実践すべきであるという真理を指す。

正解→③ ブツダの四諦は、苦諦・集諦・滅諦・道諦からなる。このうち滅諦とは、煩惱を滅却することで苦しみから逃れた境地に到れるという真理を指し、道諦とは、そうした境地に至るための修行法(=中道、八正道)があるという真理を指す。中道は、快樂と苦行という両極端をいずれも退ける修行法である。

- ① ② 苦諦とは、人生がすべて苦しみであるという真理を指し、集諦はそうした苦しみの原因が煩惱の積み重ねによるという真理を指す。
- ④ 「あらゆる存在はいつか必ず滅ぶという真理」は、四法印のうち諸行無常のことである。また「禁欲的な苦行」はバラモン教やジャイナ教では重視されてきたが、仏教においては悟りを妨げるものとして、快樂とともに否定される。

2012 本試 古代インド思想

古代インドでは世界を貫く真理について様々な仕方で考えられてきたが、その説明として

Pain is inevitable Suffering is optional

最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ナーガールジュナ（竜樹）は、存在するものすべてのものには実体がないという思想を説いた。
- ② ウパニシャット哲学では、人間だけでなくすべての生あるものが成仏できる可能性をもつと説かれた。
- ③ 世親（ヴァスバンドゥ）は、梵我一如の体得によって輪廻の苦しみから解脱することを説いた。
- ④ ジャイナ教では、世界のあらゆる物事は人間の心によって生み出された表象であると説かれた。

正解→①

2013 本試 苦の教え

ブッダが苦について示した教えの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 苦諦とは、四諦の一つで、もろもろの煩惱が苦の原因であるという真理を言う。
- ② 一切皆苦とは、四法印の一つで、この世のすべてが苦しみであるという真理を言う。
- ③ 求不得苦とは、八苦の一つで、求めて得たものを失うことが苦しみであることを言う。
- ④ 五蘊盛苦とは、八苦の一つで、五つの要素からなる心の活動が苦しみであることを言う。

正解→②

2014 本試 八正道

ブッダの示した修行方法である八正道についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 「正語」とは、ブッダの語った言葉を正しく記憶することである。
- ② 「正見」とは、清らかで正しい生活を送ることである。
- ③ 「正精進」とは、肉食を避け正しく食事を取るすることである。
- ④ 「正定」とは、正しい瞑想を行い精神を統一することである。

正解→④、関取が横綱になった時、よく言うね。精進なさい！とは努力なさいということ。

総合問題

2016 本試 倫理・政経

人間の本来のあり方をめぐる先哲の考えの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① アリストテレスは、あらゆるものの根源にある究極的原因を 1 者と呼んだ。そして、1 者がすべての善の原因であり、これと一致した生に真の幸福があるとして、1 者を追い求めることを勧めた。
- ② ムハンマドは、アラブ世界の多神教を批判して、厳格な一神教であるイスラーム教を創始した。そして、アッラーに太陽神としての姿があることを認め、それを形に

して崇拜すべきだと主張した。

- ③ 世親（ヴァスバンドゥ）は、宇宙の究極的原理である絶対者と、個人の本質が同一であると主張した。
- ④ 荘子は、万物はすべてひとしいとして、善悪や生死などの相対的な区別を超えるべきだと説いた。そして、天地万物の根源である道を自ら体現し、絶対自由の境地に遊ぶことを理想とした。

正解→④ 4 「万物はすべてひとしい」とは、荘子の万物斉同の教え。「絶対自由の境地に遊ぶ」とは、逍遥遊のこと。1 すべての根源に「一者」があり、これと合一することに幸福を見いだすのは、新プラトン主義の哲学者プロティノスの立場。

2 第 1 文は正しいが、第 2 文が誤り。アッラーは万物の創造者であり、太陽をも創造している。太陽などの具体的事物を崇拜する偶像崇拜は、イスラームにおいて厳しく禁じられている。3 世親(ヴァスバンドゥ)は大乗仏教における唯識思想の大成者。第 1 文は、ウパニシャット哲学における梵我一如についての記述になっている。また第 2 文について、大乗仏教では必ずしも出家が必要とされない。

2013 本試 宗教の聖典

いくつかの宗教では、様々な聖典が編集されてきた。その説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① イスラーム教では、聖典を基にしてトーラーと呼ばれる生活規則がまとめられ、日常生活のなかでそれが実践された。
- ② キリスト教では、イエスが自らの言行を編集した『新約聖書』に新たな文章を加えることが禁じられ、聖典を正しく保持すべきとされた。
- ③ ユダヤ教では、律法を守らない社会の墮落を批判し、神への信仰を保つことを説いた預言者たちの言葉も、聖典のなかに収められた。
- ④ バラモン教では、様々な知識が聖典としてまとめられ、なかでも最古のものが、神々への賛歌などを集めた『スッタニパータ』である。

正解→①